

歴史不華鏡

112回

田中貢太郎の反骨

高知県立図書館

渡邊 哲哉



●田中貢太郎生誕地の碑（仁井田）

高知市仁井田に生まれた田中貢太郎は、明治三十六年に文学を志して上京し、美文で知られた同郷の文人大町桂月の門を叩いた。明治初期の政界を舞台にした新聞小説「旋風時代」が大当たりしたほか、数多くの怪談、怪奇小説でも知られる。

評論家の種村季弘は、貢太郎の怪談について、もともと政治青年であった彼の「志を得なかった国土の裏芸」であり「余技」であったのだろうと評している（『日本怪談集 取り憑く霊』解説）、貢太郎本人は「理屈なしに怪談が好きだ」とも言っている。

貢太郎の出世作は、大正三年に『中央公論』に発表された「田岡嶺雲・幸徳秋水・奥宮健之追懐録」であった。著作が悉く発禁処分となった嶺雲、大逆事件で刑死した秋水と奥宮。そんな土佐出身のくせ者たちを貢太郎は恩人であるとして、その思い出を綴っているが、そこには、当時彼らに対して世間が抱いていたであろうイメージとは異なる、人間味溢れる姿が描かれている。

資料がある。田岡嶺雲による序文の校正刷と関連する文章などを併せて一冊に綴じたもののだが、巻頭の貢太郎の墨書によれば、当初幸徳秋水最後の著作「基督抹殺論」に付されるはずだった嶺雲の序文は結局使われず、校正のために送られてきていたゲラ刷りを貢太郎がもらい受けたのだという。嶺雲の甥である田岡典夫は、師匠の貢太郎からそれをもたらすとすぐに表紙をつけ、貢太郎に頼んで巻頭に由来を書いてもらった。貢太郎が由来記を書いた秋の日のことを、田岡は資料巻末に付記している。昭和十四年のことだ。「よく晴れた秋空を羽田の飛行機献納式に爆撃の実況をみせにゆく編隊機がいくつもいくつも飛んでゆく。先生は、ちよūdこの上を飛んでゆくきに危ふていかんと首をすくめてゐられた。」

一見おどけたもののように見える貢太郎のふるまい。ただ、「志を得なかった国土」であり、反骨の人々を恩人として回顧した貢太郎の胸の裡を思う時、軍用機の編隊飛行に向けられた「危ふていかん」という言葉は、にわかに暗く重い意味を帯びてくる。

市長コラム

内和の外順

高知市長 岡崎誠也

ネコ型人間の時代

おたはじの 太田肇・同志社大学政策学部教授が書かれた「ネコ型人間の時代」（平凡社新書）が面白い。本の帯には、「成功の秘訣は『ネコ型』とあります。

太田氏は、これまでの日本では、企業や社会に従順で、周囲と協調できる「イヌ型」の人間を多く育てあげ、一定の成功を収めたと認識しつつ、その結果、別の面から見ると、「個性に乏しい」「本人も自分自身を社会の中で、どうアピールしているのか分からない」という状況が増え、社会に活力がなくなってきたことを憂えています。

確かに周りの職場を見渡してみても、若い方々の早期退職が目立つようになりました。昔に比べ、転職への抵抗感がなくなつたように感じます。

「こつすれば効率がいいはずなのに」と思いながら、言いづらいまま、上司の指示を待つことが多くなつたりしていることもあるのではないのでしょうか。

著者は、新しい情報化を中心とする時代には、「ネコ型人間」

の方がうまく適応できるのではないかと述べています。ネコは一定の自由度の中で、対等の関係を好むとされています。お互いに「ウイン・ウイン」の関係を持ちやすくなるとも言われています。

プロ野球等のチームでも、ガチガチの管理野球より、選手の自主性に任せたチームの方が伸びると有利に試合を進めています。

社会がどんどん多様性に富むようになり、一人一人の自主性や個性が大切にされるのが新たな価値観になりつつあります。

色々な個性が大切にされる社会が広がればいいですね。



広告

騒音下でこそ役に立つ補聴器をあなたへ

補聴器の新たな時代の始まりです

先進の人工知能(AI)を搭載することでより自然な聞こえを可能にしました



世界で数多くのアワードを受賞「オーティコンモア」

新しい聞こえの世界を体験ください

MT HA 安心の全国 86 店舗 ネットワーク

新日本補聴器センター 高知店

認定技能者多数在籍 試聴・貸出・調整メンテナンスは全て無料で承ります。

高知市北本町2丁目1番12号 駐車場有り(ホテル港屋第1パーキング内)

営業時間 午前9時～午後5時 定休日 日曜・祝日・第4土曜

TEL 088-885-5855

※木・金曜日留守の場合があるためご連絡下さい。ご相談により、時間外相談・訪問も承ります。

